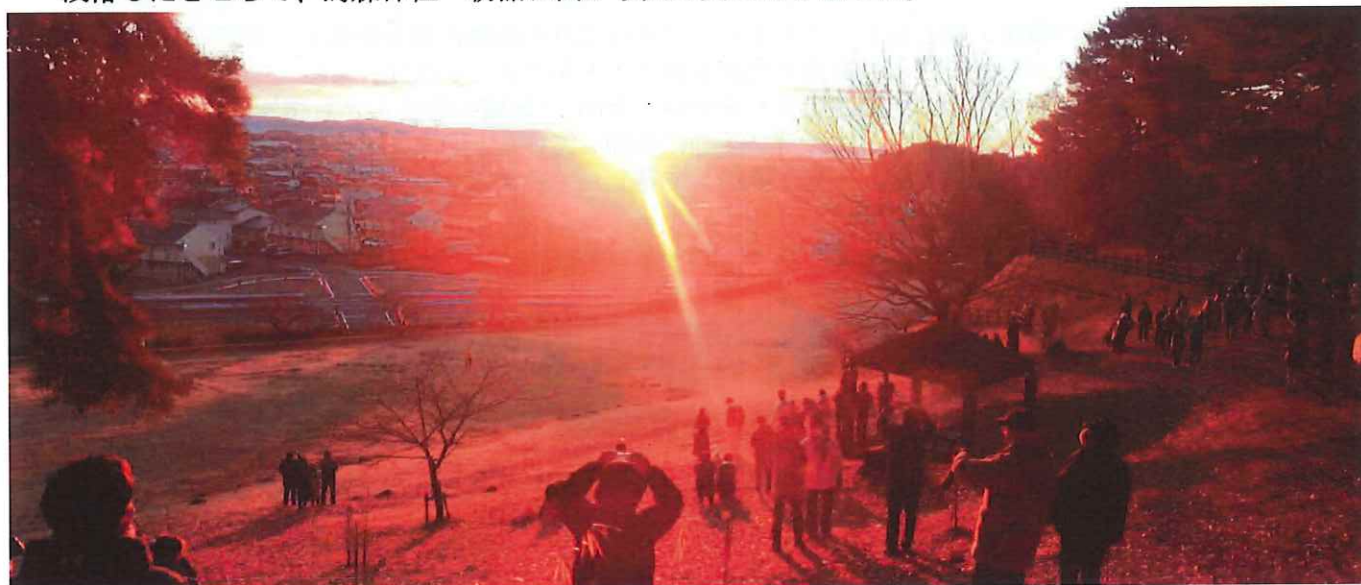




（花梅、季節を先取り？）1/7四区町にて撮影

令和5年 烏ヶ森からの「初日の出」

烏ヶ森の東斜面には、毎年多くの人々が訪れ「初日の出」を迎えます。令和5年1月1日、気温マイナス1℃。風もなく穏やかな中、7時少し前には太陽が昇り始めました。シャッターを切る人、手を合わせる人、歓声をあげる人。昨年、拝めなかった分まで「初日の出」を堪能している様子でした。一段落したところで、烏森神社へ初詣に向かう人の列となりました。



左の写真は、烏ヶ森の東斜面から西三島方面を撮影したものです。新しい道路の骨格が出来はじめています。この道路が烏ヶ森の端を貫いて、三区町方面に抜けることになります。

「初日の出の写真」の端の方は、近い将来、片側2車線の道路になります。烏ヶ森の東斜面からの「初日の出」の風景も変わることでしょう。



烏ヶ森近くの田んぼには、今年も白鳥が来ています。写真は烏ヶ森での初詣の後、撮影したのですが、30羽ほどのコハクチョウが羽を休めていました。

朝は北の方から、夕方は北に向かって隊列を組んで飛ぶ姿を見ることがあります。夜は赤田調整池にいますでしょうか。

例年、年が明けると数が増える白鳥。今シーズンも、100羽を超える風景を見たいものです。

～子どもを見守るまち宣言～『ながら見守り』にご協力を！

西地区コミュニティ運営委員会では、地域の宝である子どもを安心・安全に育む活動として、那須塩原市の「子どもを見守るまち宣言」に沿った活動に力を入れることとしています。

- 【宣言の内容】◆地域ぐるみで、登下校時の子どもの見守りを推進します
◆地域ぐるみで、子どもを見守る意識を高めます
◆地域と行政が連携を深め、子どもの見守りの輪を広げます

皆さん一人一人の意識の積み重ねが地域の安全を高めますので、散歩中・庭の手入れ中・買い物途中など、日常の中での『ながら見守り』にご協力をお願いします。

西地区の行事や出来事、身近な話題などの情報がありましたら、広報編集部会員または西公民館（☎37-1677）までお寄せ下さい。また、西地区で活動していること、趣味のこと、自慢話や思い出話、地域の昔のことなど、「そすいの郷」への投稿も募集しています。（できれば写真も一緒にお願いします。）

子ども疏水太鼓 6年生「修了式」&「まほろば太鼓打ち初め式」出演

12月16日（金）子ども疏水太鼓6年生修了式が郷土芸能練習室で行われました。この日は毎週金曜日の練習日。普段どおり練習を終えてから、4年～6年生の子ども達は感謝を込めて、指導者・保護者の方々に演奏を披露。6年生はオリジナル曲の演奏なども披露しました。



6年生の修了式では、郷土芸能への理解を深め、地域活動へ参加し技能を習得したとの修了証書が西公民館長から授与されました。

この後、指導者・保護者の方々に、この3年間の思い出などの話があり、最後は皆んな揃っての記念撮影となりました。コロナ禍、練習するにも制限があり、発表の機会も少ない中、10月にはとちぎ国体で、11月には郷土芸能発表会で見事な演奏を披露した子ども達ですが、5、6年生は、年明け早々の1月7日（土）に那須小川まほろば太鼓「打ち初め式」に招待され、力強く4曲の演奏を披露しました。

投稿

ウィンターカップとクリスマスカップに出場（西SC）

私達西小サッカークラブ（西SC）5年生以下のメンバーは12/10、11に新人戦“北那須ウィンターカップ”へ参加しました。1日目は大田原城山SC、JFCアミスタ市貝と対戦しましたが、惜しくも敗戦になりました。その後ジベレイト・那須との順位決定戦に勝利することが出来、ブロック戦5位になりました。2日目は5位リーグで共栄SC、高林・青木SCと対戦しましたが、勝利することが出来ませんでした。その後黒羽FCと順位決定戦を行いましたがいずれも敗戦となりました。



次週12/17、18は6年生以下のメンバーで、那須スポーツパークで開催された“クリスマスカップ”に参加しました。1日目は県央の矢吹SSS、県南の三重山前FCと対戦しましたが、2戦共に惜しくも1点差での惜敗。その後大田原城山SCにも惜敗となりました。2日目は残念ながら6位リーグでの対戦となりましたが、前日の悔しさをバネに浅川SSS、下郷SCと対戦し、2-0・5-0の2連勝で大会を終える事が出来ました。今回の結果をバネに2023年も頑張ってくれると思います。これからも皆さんの応援をよろしくお願いします。

（西SC 専属審判員 南赤田 樋口泰幸）



鳥ヶ森の野鳥たち⑫ シジウカラ（四十雀）

全長14.5cm。白いほお、胸からお腹にネクタイ模様（太い方が雄）がある身近な野鳥です。シジウカラのさえずりは「ツーピー」や「ツツピー」を繰り返します。地鳴きが「チ・チジュクジュク」と表されることから「シジウ」は鳴き声を表したものと考えられています。「カラ」は、ヤマガラ（ガ）の「ガラ」や、ツバクラメ（ツバメ）の「クラ」と同じく、鳥類を表す言葉です。ほぼ全国に分布していますが、北日本に多く、西日本には少ないようです。